



# 「地域への奉仕を実現できるように、感謝のエネルギーを拡散しましょう」 山形南ロータリークラブ会報

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT2800

RI会長：フランチェスコ・アレツォ 2800地区ガバナー：小松 栄一 ガバナー補佐：伊藤 明彦  
会長：奥村 健二 幹事：間木野 仁美 会報・史料委員会 委員長：伊藤 健二  
委員：池田 等 石黒 雅知 森谷 正宏 松田 勝行 熊谷 一幸 金田 亮一



## 第2476回例会

2025- 2/3 (火) 天気(曇)

□例会場：パレスグランデール

□点 鐘：PM 12:30 奥村 健二 会長

□司会進行 (SAA)：瀬野 敏和 君

□ロータリーソング：「国歌」「四つのテスト」

### 会長挨拶



皆さんこんにちは。本日はゲスト卓話として、山形商工会議所広報担当、花谷賢一さまをお迎えして、「三浦新七博士のこと」についてお話していただきます。私、不勉強でどういう方なのかわかりません。30分ですがよろしくお願ひします。また、クラブ協議会のために山形北クラブの第5グループガバナー補佐、伊藤明彦氏が参加されています。雪で足場の悪い中おいでいただきありがとうございます。

今日は何の日？ですが、季節の移り変わりの目安となる「雑節」の一つ。「立春」(2月4日頃)の前日で、「大寒」(1月20日頃)から約15日目にあたる。「節分」の日付は、近年では2月3日となることが多い「節分」ですね、2月2日のときもあるそうです。冬の節が終わり、春の節に

移る。この時期だけでなく、本来は「立夏」(5月5日頃)、「立秋」(8月7日頃)、「立冬」(11月7日頃)の前日をそれぞれ「節分」というそうです。太陰暦(太陰太陽暦)では「立春」を年の初めと定めており、「立春」の前日すなわち「大寒」の最後の日にあたるこの「節分」を特に重視したそうです。季節の変わり目には邪気(鬼)が生じると考えられていたため、それを追い払う意味で「豆まき」が行われる。一般的には「福は内、鬼は外」と声を出しながら豆をまき、年齢の数だけ豆を食べ厄除けを行う。山形を代表する企業「でん六」の鈴木さんの会社は年間売り上げの何割かをこの豆まきの行事で達成するそうです。上山のでん六工場には大型トラックが数週間何台も列をなして積み込みを待機しています。「鬼は外福は内。」衆議院総選挙も終盤に入ろうとしています。先日、応援演説で小泉進次郎防衛大臣の演説をまじかで聞く機会がありました。お米の時よりもとってまかつよかったと印象でした。会員の皆さん必ず投票してください、よろしくお願ひします。以上です。

### 幹事報告 間木野仁美 幹事

1. 本日、例会終了後に第3回クラブ協議会および理事会を開催いたします。ご参加予定の皆様は、どうぞよろしくお願ひいたします。
2. 来週は祝日の週となるため、休会となります。次回例会は、2月17日(火)18時30分より、山形ワシントンホテルにて創立記念例会を開催いたします。
3. 2月24日(火)の例会は、2月21日(土)開催のIMへの例会変更となります。当日は、こちらの会場での通常例会はございませんので、お間違ひのないよう、どうぞよろしくお願ひいたします。
4. 山形市内7ロータリークラブ合同によるボウリング大会が、3月14日(土)14時30分より開催されます。皆様奮ってご参加くださいますよう、お願ひいたします。



ポールハリス・フェロー受賞  
浅野 裕幸君  
米山功労者第4回マルチプル受賞  
武田 秀則君  
米山功労者第1回マルチプル受賞  
中村 篤君



ガバナー賞(地区への貢献賞)表彰  
菊地 賀治君  
10年皆出席表彰  
間木野仁美君



米山奨学生リュウ・イハンさんとソウ・ゲイケツさんに奨学金の贈呈。

### 委員会報告

#### ニコニコBOX 渡邊 清則 君

- 浅野 裕幸君 ポール・ハリス・フェロー賞受賞いたしました。ありがとうございます。
- 土田 貴英君 ゲストの花谷さん、ようこそいらっしゃいました。
- 奥村 健二君 花谷さん、伊藤ガバナー補佐、いらっしゃっていただきありがとうございます。
- 本間 安信君 花谷さん、卓話よろしくお願ひします。
- 鉄 浩二君 先日、次年度の顔合わせ会開催しました。よろしくお願ひします。
- 間木野仁美君 花谷さん、伊藤ガバナー補佐ご出席ありがとうございます。10年皆出席表彰いただきました。
- 菊地 賀治君 伊藤ガバナー補佐出席ありがとうございます。地区への貢献賞いただきました。
- 石山 祐介君 昨年のクラブ優秀賞いただきありがとうございます。
- 伊藤 明彦ガバナー補佐 本日のクラブ協議会よろしくお願ひいたします。(山形北RC) たします。

例会場／パレスグランデール 例会日／毎週火曜日 12:30～13:30

事務所／山形市十日町1-1-26 歌懸稲荷神社 社務所ビル 2F TEL.023-632-7777 FAX.023-624-5200

山形市内 例会日案内

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
山形西 山形イブニング	山形中央	山形	山形北	山形東



## 『三浦新七博士の生涯と業績』

山形商工会議所 広報担当 花谷 賢一 氏



学問は学問のための  
学問であってはならぬ。  
何のための学問か考えよ

本日はお時間を頂きありがとうございます。今日は山形が生んだ学者であり、両羽銀行の再建にも身を投じた実務家でもあった三浦新七博士のお話をいたします。ご存じの通り、山形商工会議所会館には三浦新七博士記念館があり、1963年から毎年、山形市の産業経済発展に貢献した個人・団体に三浦記念賞が贈られております。

三浦博士を語る上で中心に据えたい言葉が二つあります。一つは生涯を貫いた「学問のためにする学問ではなく、何のための学問か考えよ」。もう一つは晩年の「考え来れば、明治の我々は急ぎ過ぎた」。この二つの言葉を軸に、博士の人生をたどりつつ、山形中学時代からの盟友である結城豊太郎、さらに同時代に生きた山形出身者である池田成彬、石原莞爾にも少し触れながら話したいと思います。

三浦博士は1877(明治10)年、山形の旅籠町の呉服商の家に生まれます。来年で生誕150年になります。山形は紅花、最上川舟運、北前船交易で栄えた奥羽地方の商都でした。「行きも帰りも商いになる」いわゆるのこぎり商いで栄えた土地で、博士の先祖は背負い商いから紅花商人として産をなし、同じく笹谷峠の背負子から日本一の紅花商人となった長谷川家と共に、今日に至るまで山形銀行の創業家として本県金融産業界の中心をなしております。現在の山形銀行専務取締役三浦新一郎氏は9代目となります。

博士は小学校を出ていったんは日本橋の呉服屋に奉公に上がりますが、奉公先の内儀が「この子は商人として一生を送らせるより、学問の道に進めた方がよい」と見抜き、山形中学へ進みます。飛び級するほど優秀で学業はもとより、在学時代に「実業的学問」と題した論文を書きます。要旨は明快です。学問をしても、必ず大政治家や官僚になれる保証はない。ならば何を学ぶべきか。農業、商業、土木、機械、工芸—社会を動かす学を学ぶべきだ。つまり、学問のための学問ではなく、応用のための学問ということです。学びは社会に返して初めて意味を持つ。博士はそれを十代のうちに言語化しているわけです。

明治23年、博士は日本最初の官立の商業学校東京高等商業学校、現在の一橋大学へ進みます。福沢諭吉は「維新以来、明治29年の今日に至るまで日本国中にどうして一カ所も商業学校はないのか。西洋諸国では商人あれば必ず商業学校がある。剣を持って戦う時代には剣術を学ばなければ戦場に向かうことはできない。商売で戦うには商法を研究しなければ外国人に対抗することはできない」と激烈な調子で設立趣意書を書いています。ボート部に所属し、当時学生の間で大流行していた娘義太夫を聴くため足繁く寄席に通っていた博士が、世間をあっという間に驚かせます。日清戦争後、紡績・織物業界を中心に倒産が続出し、銀行も破綻するなど、日本が初めて経験した恐慌にあつて、大阪商工会議所の懸賞論文に応募し、長編『恐慌論』で全国第一席になったのです。

ここで博士が繰り返す合言葉が「整理」です。冒頭で、当時としてはかなり強い調子で、こう断じます。「財政悪化の病魔は過大な軍備の拡張である」と。さらに民間についても、過剰生産、無理な競争、銀行の乱立、監査の形骸化、情実人事を指摘します。「重役は人物と専門性を備えよ」「監査は判を押すだけではいけない」。そして最後に、新聞の不安を鵜呑みにせず、世界を見て冷静に判断せよ、と説きます。

経営でも同じだと思います。景気がよく空気が熱いほど、「整理」や「監査」を言いにくくなります。博士は22歳で、組織と社会の病理を真正面から言葉にしました。私はここに、博士の真骨頂――空気に逆らって合理を言える胆力を見ます。

明治36年、博士はドイツへ留学し、ゲーテやニーチェを生んだ名門ライプツヒ大学で、歴史学の大家との出会い、文明史へ踏み込みます。博士は後年こう語っています。「商業政策をやるにしても歴史をやらねばならぬ」。制度や政策、あるいは会社の戦略も、目先の打ち手だけで決まるわけではありません。社会がいまどの局面にあるのか、どんな流れの中にあるのか。そこをつかむ「歴史の目」がないと判断を誤る。博士はそれを、自分の体験として掘ったのだと思います。

帰国後、三浦本家の家督を相続した博士は、昭和に入り郷里へ戻り、両羽銀行の再建に当たります。減資して不良債権償却に充て、責任を引き受けて頭取も務めます。学者でありながら、現場で責任を負う人でした。さらに母校では学園紛争が起き、学長として「火消し」を頼まれます。就任式で博士はこう言います。学者の間に見解の相違が起きるのはやむを得ない。ただし、互いの立場を尊重し、理解し合うという寛容な態度を持って、いわゆる君子の争いをなすべきである。対立はゼロにはできません。しかし、人格攻撃や分断に堕ちた瞬間、組織も社会も持たない。博士はその線を守れ、と言ったのだと思います。

ここで、博士の山形中学時代からの盟友結城豊太郎に触れます。赤湯町に生まれた結城はのちに大蔵大臣、日本興業銀行総裁、日本銀行総裁などを歴任し、日本経済の中樞に立った人物です。そして博士の最期に弔辞を読む、生涯の友でもあります。結城について、今日の話の軸にしたいのは、役職が上がるほど「迎合」が増える局面で、逆に筋を通した点です。結城が日銀総裁の時代、巨額の軍事費支出をめぐって緊張が高まる中、東条首相の意向と衝突する形になり、結果として罷免に至りました。結城が示したのは、立場が上がっても、場当たりの帳尻合わせではなく、通貨と信用に責任を負う側の論理を手放さなかった、という姿勢です。

三浦博士が若き日に『恐慌論』で言った「整理」や「監査」、そして「世界を見て冷静に判断せよ」という言葉。それを結城は、実務の最高地点で背負っていたのだと思います。学者の三浦が「言葉」で枠組みを示し、実務家の結城が「現場」でそれを背負う。山形中学で同じ教室にいた二人が、その後、別々の場所で同じ課題―信用、責任、そして冷静な判断―に向き合い続けたのです。

同じ同時代の山形出身者として、池田成彬(山形銀行の前身である両羽銀行初代頭取池田成章の長男です)、そして石原莞爾にも「権力との距離」という点で印象的なエピソードがあります。池田成彬は三井の総帥として首相候補に挙げられました。敗戦必至となった昭和19年には近衛文麿、岡田啓介、米内光政らとともに東条内閣打倒工作に動きまわりました。東条は憲兵組織を駆使して重圧を加えるとともに、懐柔工作に動き中国戦線に輸送される池田の子息を安全な東京勤務に移してはどうかと申し入れましたが、池田はこれを敢然と拒否したのです。敗戦後子息の遺骨が届き、参列者からイギリスで勉強し、大尉や少佐ならまだしも陸軍伍長じゃ浮かばれませんねという声を耳にしたとき、池田は「私はそうは思わない。日本社会の風潮を見ていると一にも出世、二にも出生、大臣よ、大将よとただ地位のみを問題にしていえる。人間の価値はそんなことで決まるのか。私はいかに忠実にその職責を果たしたかによって評価する。伍長でも上等兵でも私に不満はない」と答えました。戦後首相となった吉田茂は週に一度池田を訪れ財政経済、人事について意見を求めました。

また石原莞爾は、太平洋戦争に反対する立場を取り、「ドイツを頼って米英と相手に戦うというなら、これほど大馬鹿で危険千万なことはない」。「石油のために一国の運命を賭して戦争する馬鹿がどこにあるのか」と主張し、東条首相と対峙しました。

激動の時代に、学問、金融、財界、国家構想と立場は違っても、空気に飲まれず自分の論理で語ろうとした山形人がいた。これは山形の誇りとして共有してよい事実だと思います。

昭和22年正月、70歳を迎えた三浦は大学で「新日本国民の理念と西洋文化」と題して講演します。ここでは日本国憲法について「国民が平和を希求することは普遍的であるが、今日の現実世界はこの理想にほど遠い。その冷酷な現実を日本人は覚悟しなければならない」と語り、さらに「考え来れば、明治の我々は急ぎ過ぎた。西洋文化を手当たり次第移入した。一刻も早く欧米文化に追いつこうと焦った。その結果、外形だけ整えて精神が伴わなかった。実力や時代の変化を見極めず、ただ必勝の新年だけで押し通して失敗した」と博士はそう自省します。続けて「新日本の我々はこの失敗に鑑み、我々の現実の力をはっきりつかまなければならない」と学生たちに語りました。急ぐべき時もちろんあります。しかし急ぐほど、異論が出なくなり、都合のよい情報だけが集まり、いつの間にか「精神が抜けた外形」だけが立派になる。今日への教訓としてとらえたいと思います。

昭和22年8月、がんに侵された博士は、盟友結城が見舞いにおいた葉巻の煙をフーと吐き、70年の生涯を終えました。愛用していた小豆色の貴と族院手帳に「とつ国の嵐に夢はやぶれたれど、なお夢見なむ老いを忘れて」という一首が遺されていました。本日は、三浦新七博士の言葉を借りて、山形の私たちが持つ知の遺産を、いま一度自分の仕事の言葉に引き直す時間にしたいと思ってお話ししました。ご清聴ありがとうございました。

#### ○本日出席・前回修正出席

	会員総数	算出会員数	出席会員数	出席率
本日	49名		29名	
前回修正				
他クラブでメイクアップされた会員				

※本日の結果は2週間後に報告 ※修正は2週間前の結果報告

出席会員数÷算出会員数=出席率

算出会員数とは? 出席義務会員+メイク免除会員の出席者

出席会員数とは? 出席義務会員の出席者+メイク免除会員の出席者+メイク会員